

# 新しい時代の学びを実現するため 創意工夫して学習空間を計画している学校

若葉台小学校（東京都立川市）

## 本事例のキーワード

柔軟な学習空間

木材利用

図書スペース



## 事例のポイント

小学校2校の統合を機に新校舎を整備し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた、柔軟で創造的な学習空間を工夫している。

## 事例概要

立川市若葉町には、旧けやき台小学校と旧若葉小学校の2つの小学校があったが、両校ともに、児童数の減少が見込まれており、施設の老朽化も進行していた。このため、小規模校の様々な課題を解消するとともに、教育環境を向上して新しい学びを実現するため、平成30年4月に2校を統合して若葉台小学校を新設し、令和3年4月には新校舎に移って新たに教育をスタートさせた。

新校舎の計画は、新校舎建設マスタープラン検討委員会をはじめ、アンケート、ワークショップ、学校ヒアリング等により、子どもたちや保護者、教職員や地域の方々から様々な意見を聞きながら進められた。

新校舎は、様々な学習形態にフレキシブルに対応できる教室まわりや、図書室を中心とした多目的室や特別教室のまとまりをラーニング・コモンズとして整備するなど、新しい時代の学びの実現に向けた学習空間が計画されている。また、内装には多摩産の木材等が使われており、温かみとうるおいのある快適な室内環境が実現されている。

その他、地域の方々が立ち寄れるような「みんなの広場」を設けたり、学校の活動を地域に発信できるように、廊下の窓には子どもたちの作品等を飾る展示棚が設えてあったり、学校と地域をつなぐための様々な工夫も行われている。



## 事例ポイント 1

### ロッカー等の配置等の工夫による教室空間の有効活用

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、その基盤となる学習空間も、画一的・均質的なものから、柔軟で創造的なものに転換していく必要がある。

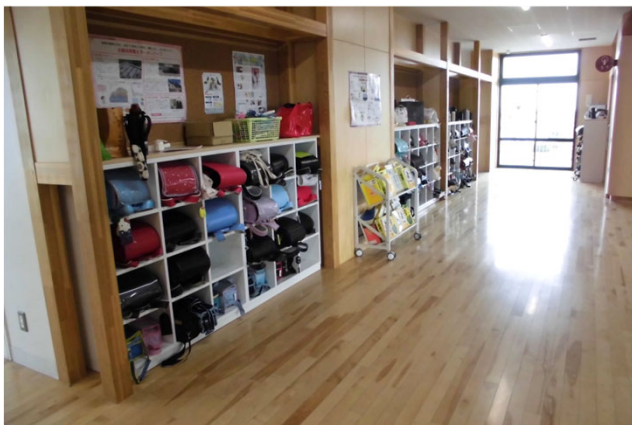
若葉台小学校では、子どもたちの学習の成果の発表などに柔軟に対応するための空間として、普通教室にはオープンスペースが併設されている。また、普通教室内の空間を多様な学習活動に最大限生かすための創意工夫として、掃除用具入れやランドセルロッカー、給食配膳台等の家具類を教室外のオープンスペースに設置し、8 m×8 mの一般的なスパン割の中でも広い学習空間を確保している。これにより教室背面の壁面が全面的に利用できるため、壁面を利用したグループ学習など、様々な学習形態にもフレキシブルに対応できる。その他、「パオ」という名の小教室を併せて整備し、支援が必要な子どものクールダウンや教室の拡張スペース、教室以外の子どもたちの居場所として活用ができるように計画している。



普通教室とオープンスペース  
(間仕切りを開いた状態)



普通教室とオープンスペース  
(間仕切りを閉じた状態)



オープンスペースに設置された  
ランドセルロッカー



各教室に計画された小教室「パオ」  
(低学年)



各教室に計画された小教室「パオ」  
(高学年)

## 事例ポイント 2

### 読書・学習・情報のセンターとなるラーニング・コモンズ

どの教室からも利用しやすいよう、図書室を学校の中心に計画し、図書室を中心とした多目的室や特別教室のまとまりを「ラーニング・コモンズ」と位置付けている。図書室は間仕切りの無いオープンな空間で、書架と閲覧机だけでなくカーペットや畳を敷いた小空間があるほか、階段で直接、閲覧学習室とつながるように計画されており、子どもたちが日常的に立ち寄りやすい身近な場所となっている。また理科室や図工室などの特別教室との連携も行いやすいため、各教科等における調べ学習での活用や、子どもたちの自主的・自発的な学習、協働的な学習を促すことにつながっている。



廊下との仕切りがなく  
自由に立ち寄りやすい図書室



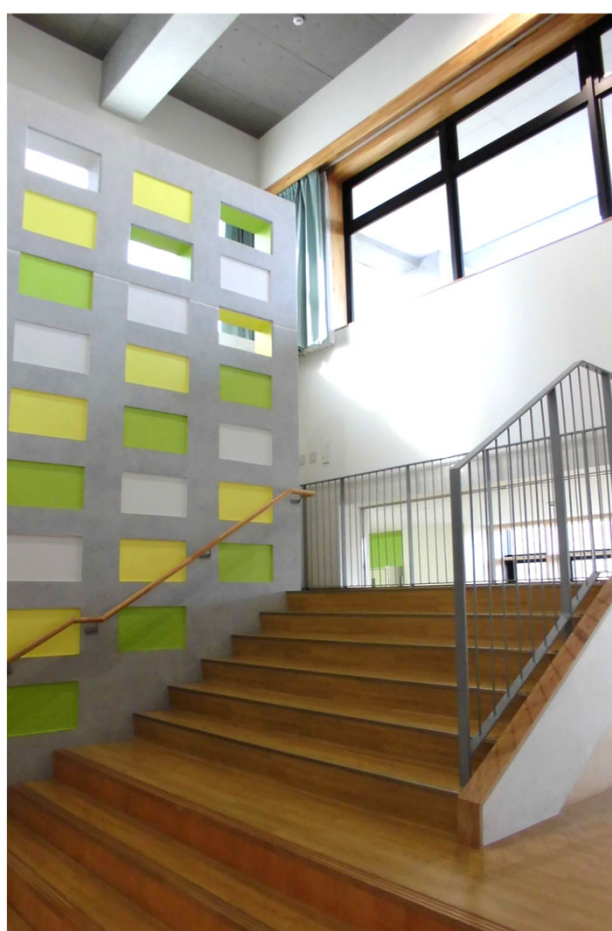
図書室内の様子



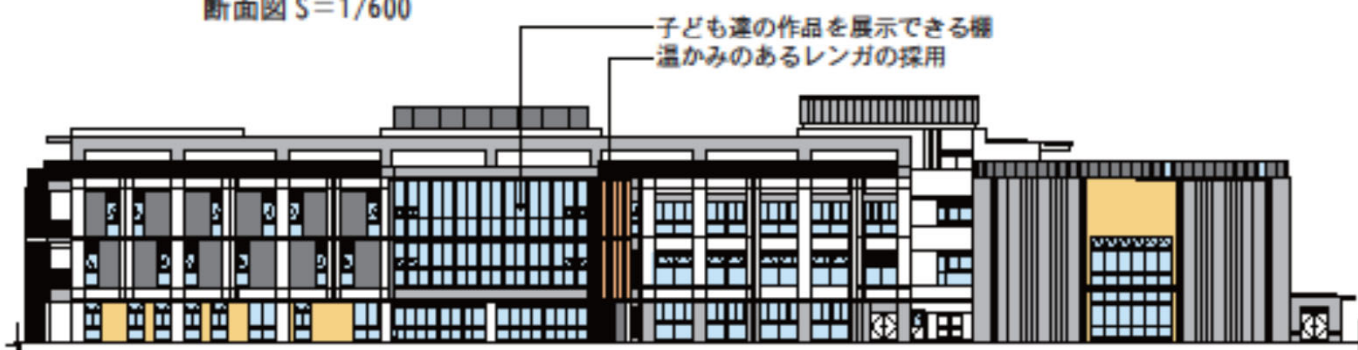
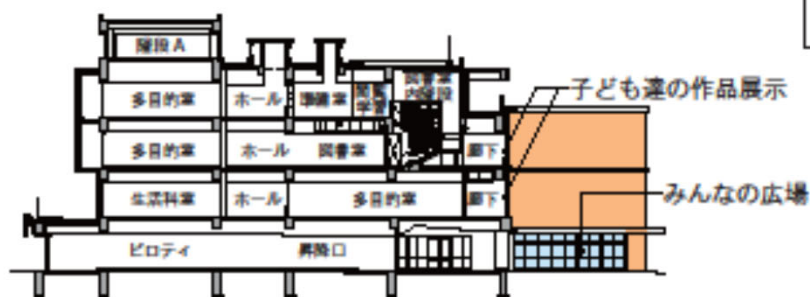
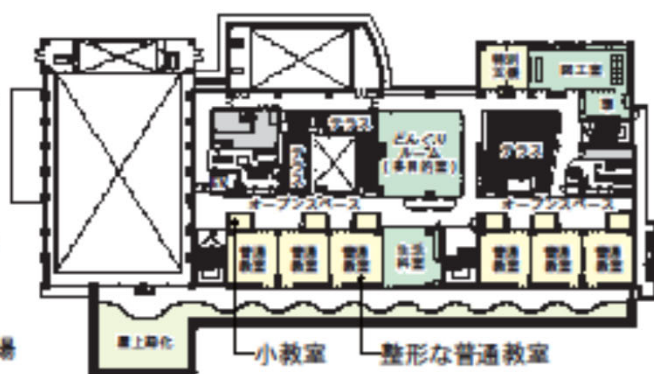
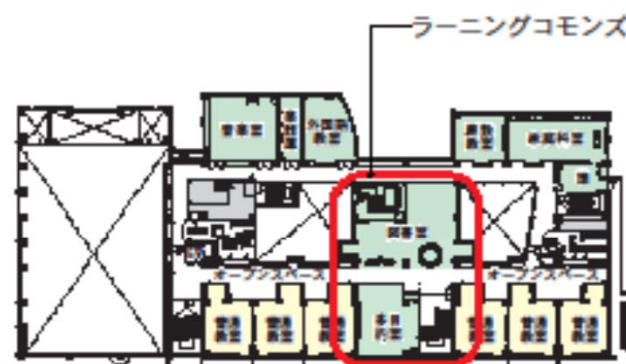
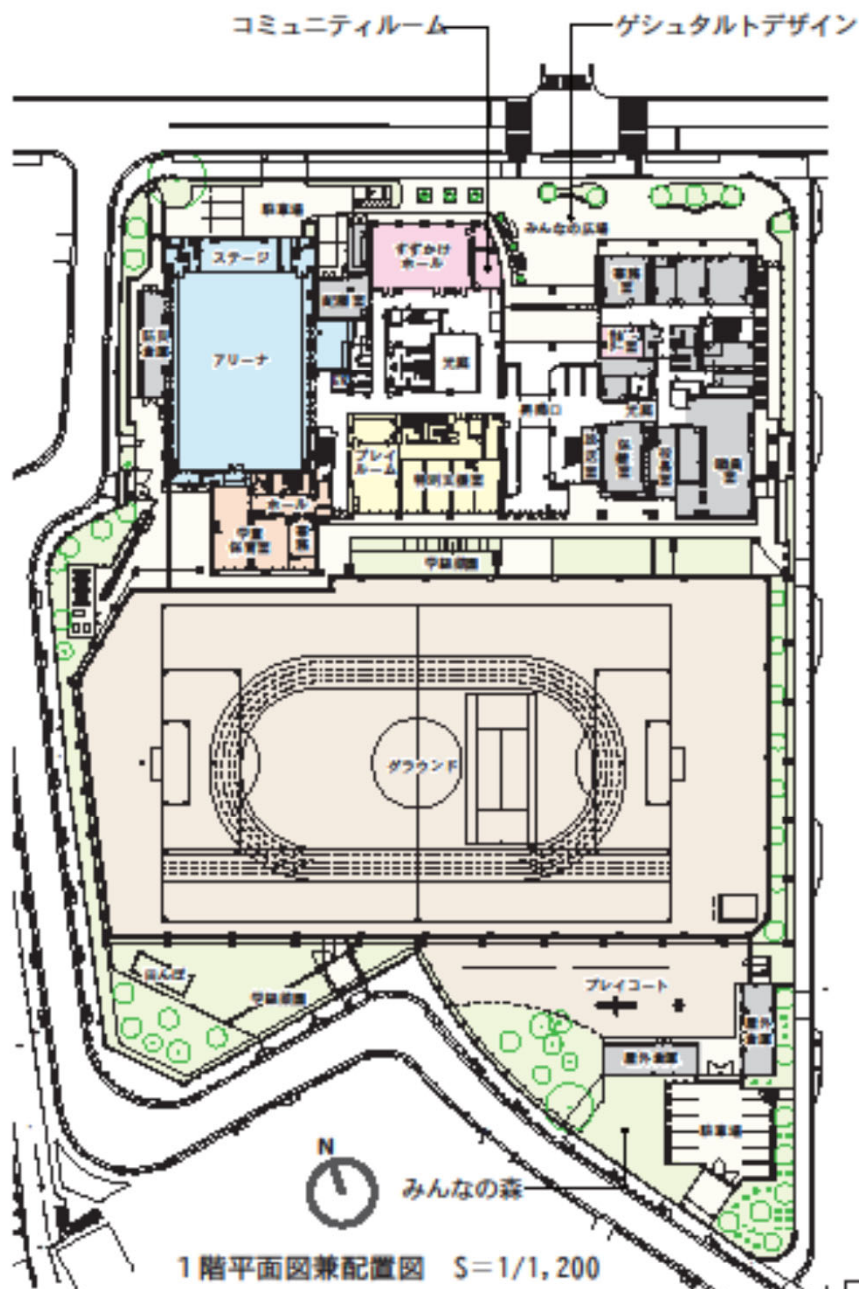
閲覧学習室の様子



図書室内に設けられた畳コーナー



図書室内の階段を上がると閲覧学習室に接続



# 学校概要

若葉台小学校  
東京都立川市

全体工期：令和元年7月～令和3年2月  
学校規模：18学級、512人（特別支援学級 3学級22人）  
敷地面積：15,979㎡  
保有面積：10,739㎡  
構造：RC造（一部S造、SRC造）4階建  
※令和6年2月時点

## コラム

### 移動式の家具を活用して実現した柔軟な共創空間「すずかけホール」

若葉台小学校には、数多くの地域開放空間があり、「すずかけホール」はその中心ともいえる多目的ホールである。「すずかけホール」では、移動式の家具（ベンチタイプの移動観覧席）を活用し、子どもたちの学習・活動はもとより、様々な地域開放に活用できる柔軟な空間を実現した。

未使用時の観覧席は壁面に格納されている。操作は手動となるものの、重量は軽く、最低2人の学校職員で出し入れが可能であるという。収納時はフロアを広く使用することができるので、ホール全体を使って活動を展開できる。

立川市教育委員会の主催する「落語キャラバン」で、子どもたちが生の落語を聞く様子。観覧席を活用して朗読発表会や音楽鑑賞会、タブレットを使用した学習発表等が日常的に行われている。

地域の防災会議や住民の運営する放課後子ども教室のための空間としても使われており、映画会やゲーム大会の場となるなど、とくに広い空間が必要な活動を行う際に利用されている。



ホール全体を使った活動の様子



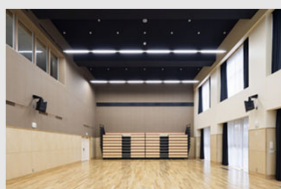
落語キャラバン



東京オリンピックの  
パブリックビューイングの様子



使用時の観覧席



未使用（格納）時の観覧席

すずかけホール平面図

